

(42)

氏名(生年月日)	赤 上 晃 アカ ガミ アキラ
本 籍	
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第303号
学位授与の日付	昭和52年11月18日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	主として拡大観察と色素応用による胃びらんの内視鏡学的研究
論文審査委員	(主査)教授 滝沢 敬夫 (副査)教授 遠藤 光夫, 教授 福山 幸夫

論 文 内 容 の 要 旨

研究目的

胃びらは日常の内視鏡検査でもつともしばしば観察される病変の一つであるが、胃びらん部のより微細な変化の把握や他病変との関連に関する胃びらんの内視鏡学的研究については、系統的かつ詳細な検討はなされていない。本論文では胃びらんの形態的变化を、主として内視鏡学的立場より可及的微細な点まで検討し、さらに胃びらんと慢性胃炎とくに萎縮性胃炎、腸上皮化生との関連について検討した。

対象

検査対象とした胃びらん例は計261例、切除胃5例である。これらの胃びらはびらん面の内視鏡的形態の差違にもとづいて以下のように分けた。1. 出血性びらん(22例、切除胃1例)、2. 白苔でおおわれたびらん(38例)、3. 発赤陥凹型びらん(90例、切除胃1例)、4. 青色陥凹型びらん(111例、切除胃3例)

方法

A. 近接拡大観察と色素内視鏡検査法併用による胃びらんの内視鏡的観察、B. 生検材料ならびに切除胃材料による胃びらんの実体顕微鏡的観察、1) 新鮮材料の観察、2) ヘマトキシリン染色による観察、C. 胃びらんの生検材料と切除胃材料の組織学的検索

成績

1) 出血性びらん、白苔におおわれたびらんにおいては、凝血塊あるいは白苔のすぐ下の粘膜表面の実体顕微鏡的構造は類似しており、胃小窩の不規則な残存像をみとめた。組織学的には再生上皮はまだ出現していない

かあるいは極めて乏しい状態にあるびらんであつた。2) 発赤陥凹型びらん、青色陥凹型びらんにおいては内視鏡的近接拡大観察あるいは実体顕微鏡観察により陥凹部の再生粘膜の状態が観察できた。3) 発赤陥凹型びらん(50例)の胃内分布はI. 主として幽門洞にみられるもの21例42.0%、II. 主として胃体部にみられるもの17例34.0%、III. 両領域にあるもの12例24.0%であつた。4) 青色陥凹型びらん(65例)の胃内分布は、胃体部、穹窿部に主として分布している症例(40例、61.5%)が最も多く、また萎縮境界近辺に存在する症例(21例32.3%)も相当数みとめられた。さらに内視鏡的萎縮境界との関係は閉鎖型をしめす萎縮性胃炎に多くみられた。(65例中52例80.0%)。5) メチレンブルーによる色素内視鏡検査法により発赤陥凹型びらんと青色陥凹型びらんとではそこに腸上皮化生が出現している状態を内視鏡的に確認できた。すなわち発赤陥凹型びらんとでは42/55(77.3%)に、青色陥凹型びらんとでは35/111(31.5%)メチレンブルーの染色が観察された。さらに同部の組織学的検索では、発赤陥凹型びらんとでは60.0%、青色陥凹型びらんとでは20.7%に腸上皮化生をみとめた。6) 切除胃材料の組織像にても発赤あるいは青色陥凹型のびらんとでは同部に一致して腸上皮化生の出現と固有腺の萎縮が認められた。すなわち、これらは胃びらんの再生過程で生ずる変化であり、胃びらん治癒像の1つであると考えた。

以上、種々の type の胃びらんの微細形態の変化を内視鏡的拡大観察法、色素内視鏡検査法、実体顕微鏡観察法により検討し、胃びらんと腸上皮化生との関係を観察

した。またこれにより、萎縮性胃炎の変化がびらんをそ
の発生起点として spotty mucosal atrophy の形で存在し
ていることが示唆された。

論文審査の要旨

本論文は慢性胃炎の成り立ちを究明する目的で、胃びらんについて内視鏡拡大観察、色素内視鏡検査、および生検材料の実体顕微鏡的検索を行い、胃びらんの内視鏡形態学的分類を試み、これらと、慢性胃炎、とくに萎縮性胃炎、腸上皮化生との関連を明らかにしたものである。

本論文は学術的にはもちろん、胃粘膜微細病変の鑑別診断など臨床的にも極めて価値あるものと認める。

主論文公表誌

主として拡大観察と色素応用による胃びらんの内視鏡学的研究。

日本消化器内視鏡学会雑誌 19巻 5号 509
～ 521頁（昭和52年8月20日）

副論文公表誌

- 1) 胃粘膜腸上皮化生の内視鏡的検討。
臨床成人病 5 (12) 1469～1476 (昭和50年
12月)
- 2) 胃底腺粘膜にみられるびらん修復像の青色小陥凹
に関する検討
Progress of Digestive Endoscopy 7 100～102
(昭和50年12月)
- 3) 腺境界と胃病変 (Ⅱ) 幽門腺, 胃底腺の腺境界と

胃びらん.

- 東女医大誌 47 (3) 305～ 311 (昭和52年3
月)
- 4) 内科側からみた消化性潰瘍治療の現況と問題点.
臨床と研究 50 (8) 2219～2226 (昭和48年8
月)
 - 5) 最近における消化管内視鏡検査の視点.
医科器械誌 46 (3) 109～ 123 (昭和51年3
月)
 - 6) 手術残胃に生じた胃石の2例.
Gastroenterological Endoscopy 14 (1) 87～
90 (昭和47年4月)
 - 7) 同胞にみた脾石症の2例.
胃と腸 9 (11) 1421～1427 (昭和49年11月)